

審査の結果の要旨

氏名 尤 雪丹

本研究は中国における医療費個人支出の決定要因を明らかにするため、China Health and Nutrition Surveyデータを使用して、計量経済学の方法を使って分析を行い、下記の結果を得ている。

1. 自己申告の健康状態と病気の重さは、医療ニーズの代替指標として、医療費個人支出の最も重要な決定要因であることが示された。さらに、慢性疾患（高血圧、糖尿病、心筋梗塞、脳卒中）患者は医療費の個人支出が高いことが示された。
2. 年齢65歳以上は医療費個人支出のもう一つの重要な決定要因であることが示された。性別と教育は重要なリスクファクターとして従来、調整要因とされてきたが、本研究では医療費個人支出の有意な決定要因とならなかった。
3. 医療サービスの所得弾力性は0.18であることが推計された。すなわち、一人当たりの世帯所得が10パーセント高くなると、医療費個人支出は1.8パーセント上昇した。この結果から、中国において医療サービスは「必要なもの」として機能していると考えられた。
4. 医療保険は医療費個人支出を増加させる傾向のあることが示された。医療保険と所得の交互作用が有意ではないため、この傾向は所得水準の異なる人々の間でも同様に認められると考えられた。
5. 医療費個人支出については、都市部居住者の方が農村部居住者に比べて高かった。また、中国の東部または中部の居住者の方が西部に居住する者より医療費の個人支出が高かった。

以上、本論文は国レベルのデータを用いて中国における医療費個人支出の決定要因をはじめて明らかにした。本研究は、中国における保健医療サービスと医療保険改革に関する政策決定と政策変更の影響を評価するための重要な基本的情報を提供するものであり、学位の授与に値するものと考えられる。